

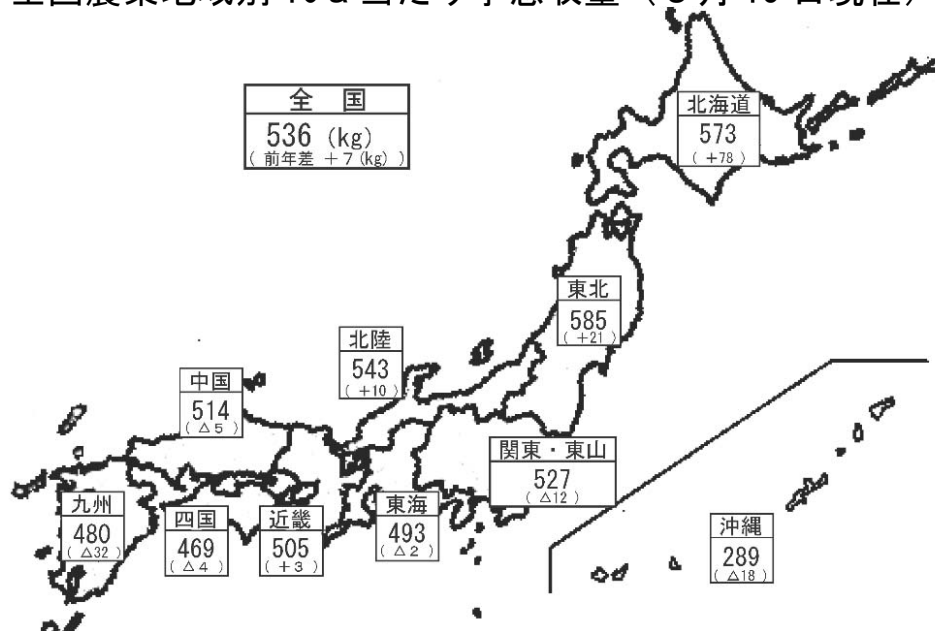
令和元年産水稲の作付面積及び9月15日現在における作柄概況

－ 主食用作付見込面積は137万9,000ha、10a当たり予想収量は536kgの見込み －

【調査結果の概要】

- 1 令和元年産水稲の作付面積（青刈り面積を含む。）は158万4,000haで、前年産に比べ8,000haの減少が見込まれる。うち主食用作付見込面積は137万9,000haで、前年産に比べ7,000haの減少が見込まれる。
- 2 9月15日現在における水稲の作柄は、北海道、東北及び北陸では、全もみ数が平年以上に確保され、登熟も順調に推移していると思込まれるものの、その他の地域では、7月上中旬の低温・日照不足の影響により、全もみ数がやや少ない地域があることに加え、登熟も8月中下旬の日照不足等の影響がみられたことから、全国の10a当たり予想収量は536kgとなった。また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの全国の作況指数は101が見込まれる。
- 3 主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は736万9,000tで、前年産に比べ4万2,000tの増加が見込まれる。

図1 全国農業地域別10a当たり予想収量（9月15日現在）



- 主食用作付見込面積とは、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積（令和元年9月15日現在）を除いた面積（見込み）である。
- 10a当たり予想収量及び予想収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 本調査における作柄概況（9月15日現在）は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行った。したがって、今後の気象条件等により作柄は変動することがある。

本資料は、農林水産省ホームページ「統計情報」の次のURLから御覧いただけます。

【 http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html#y3 】

◎ 水稻調査結果の主な利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業における共済基準収穫量算定のための資料

◎ 累年データ

水稻の年次別推移（全国）

年産	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10a当たり 収 量	収 穫 量 (子 実 用)	参 考		
	子実用	主食用 作付面積			収 穫 量 (主食用)	作況指数	
	ha	ha	kg	t	ha	t	
平成11年産	1,786,000	1,780,000	515	9,159,000	…	…	101
12	1,768,000	1,763,000	537	9,472,000	…	…	104
13	1,711,000	1,700,000	532	9,048,000	…	…	103
14	1,693,000	1,683,000	527	8,876,000	…	…	101
15	1,670,000	1,660,000	469	7,779,000	…	…	90
16	1,704,000	1,697,000	514	8,721,000	…	…	98
17	1,709,000	1,702,000	532	9,062,000	…	…	101
18	1,692,000	1,684,000	507	8,546,000	…	…	96
19	1,678,000	1,669,000	522	8,705,000	…	…	99
20	1,637,000	1,624,000	543	8,815,000	1,596,000	8,658,000	102
21	1,637,000	1,621,000	522	8,466,000	1,592,000	8,309,000	98
22	1,657,000	1,625,000	522	8,478,000	1,580,000	8,239,000	98
23	1,632,000	1,574,000	533	8,397,000	1,526,000	8,133,000	101
24	1,641,000	1,579,000	540	8,519,000	1,524,000	8,210,000	102
25	1,647,000	1,597,000	539	8,603,000	1,522,000	8,182,000	102
26	1,639,000	1,573,000	536	8,435,000	1,474,000	7,882,000	101
27	1,623,000	1,505,000	531	7,986,000	1,406,000	7,442,000	100
28	1,611,000	1,478,000	544	8,042,000	1,381,000	7,496,000	103
29	1,600,000	1,465,000	534	7,822,000	1,370,000	7,306,000	100
30	1,592,000	1,470,000	529	7,780,000	1,386,000	7,327,000	98
令和元年産 (見込み)	1,584,000	..	536	..	1,379,000	7,369,000	101

資料：農林水産省統計部『作物統計』

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。

2 10a当たり（予想）収量及び（予想）収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

3 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積（令和元年9月15日現在）を除いた面積（見込み）である（以下同じ。）。

4 作況指数は、平成27年産からは全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるいの目幅（北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。なお、平成26年産までは1.70mmのふるい目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

5 「…」は、事実不詳又は調査を欠くことを示している。

6 「..」は、未発表であることを示している。

【調査結果】

1 令和元年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は158万4,000haで、前年産に比べ8,000haの減少が見込まれる。

なお、水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付見込面積は137万9,000haで、前年産に比べ7,000haの減少が見込まれる。

2 9月15日現在における水稻の地域別の10a当たり予想収量は、北海道、東北及び北陸では、全もみ数が平年以上に確保され、登熟も順調に推移していることから、北海道は573kg（前年産に比べ78kg増加）、東北は585kg（同21kg増加）、北陸は543kg（同10kg増加）が見込まれる。

その他の地域では、7月上中旬の低温・日照不足の影響により、全もみ数がやや少ない地域があることに加え、登熟も8月中下旬の日照不足等の影響がみられたことから、関東・東山は527kg（前年産に比べ12kg減少）、東海は493kg（同2kg減少）、近畿は505kg（同3kg増加）、中国は514kg（同5kg減少）、四国は469kg（同4kg減少）、九州は480kg（同32kg減少）が見込まれる。

この結果、全国の10a当たり予想収量は536kg（前年産に比べ7kg増加）が見込まれる。

3 主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は736万9,000t（前年産に比べ4万2,000t増加）が見込まれる。

表 令和元年産水稻の作付面積及び9月15日現在の10a当たり予想収量
（全国農業地域別）

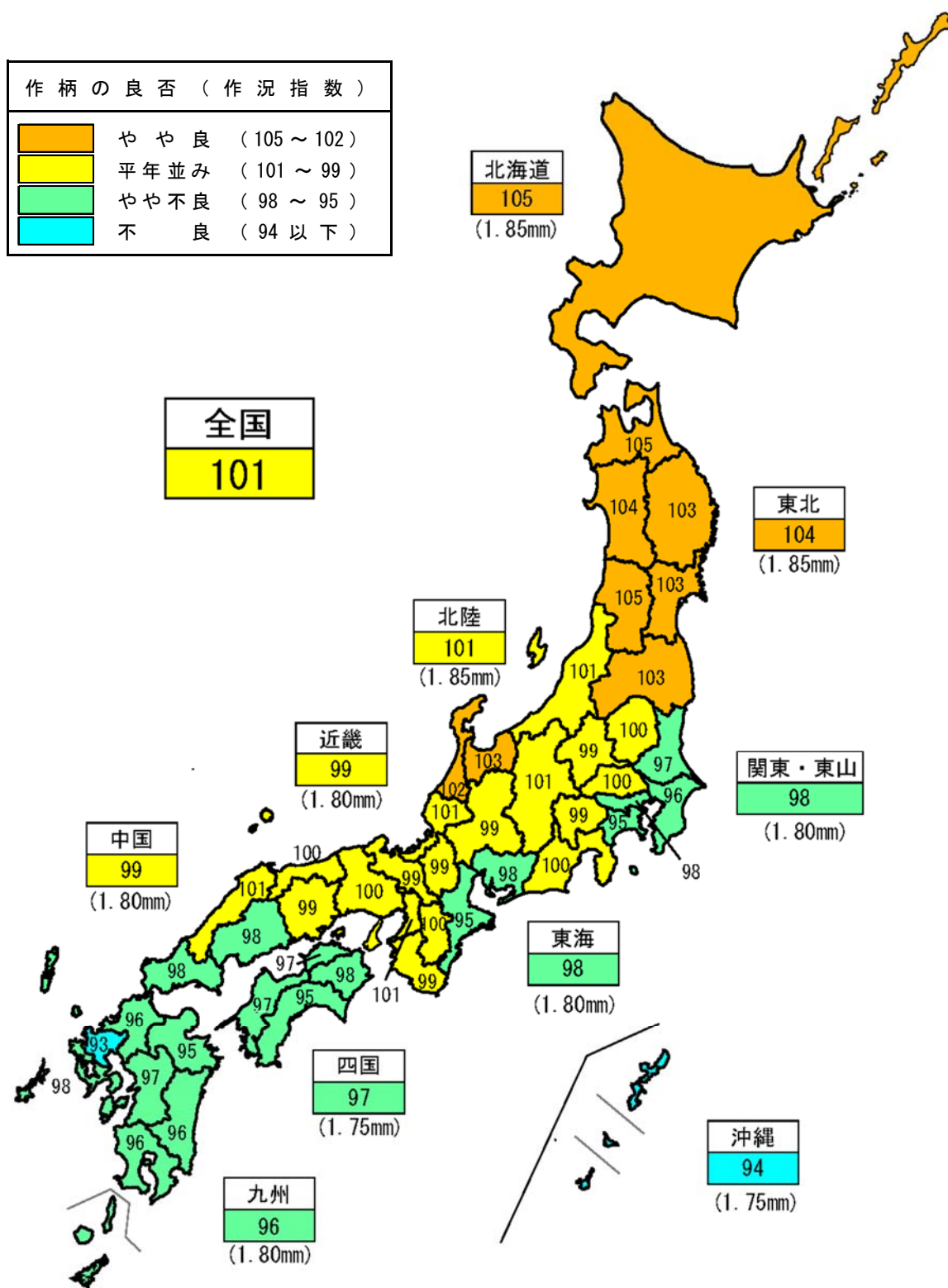
全国農業地域	作付面積（青刈り面積を含む。）			10a当たり予想収量		参 考	
	実 数	前年産との比較		実 数 ①	前年産との比較 対 差	主食用作付 見込面積 ②	予想収穫量 （主食用） ③=①×②
		対 差	対 比				
	ha	ha	%	kg	kg	ha	t
全 国	1,584,000	△ 8,000	99	536	7	1,379,000	7,369,000
北 海 道	105,600	△ 800	99	573	78	97,000	555,800
東 北	412,500	0	100	585	21	344,600	2,011,000
北 陸	212,800	100	100	543	10	186,400	1,012,000
関 東・東 山	297,600	△ 1,600	99	527	△ 12	258,400	1,363,000
東 海	100,300	△ 600	99	493	△ 2	90,500	446,300
近 畿	105,200	△ 600	99	505	3	99,000	499,500
中 国	108,000	△ 2,200	98	514	△ 5	99,400	510,600
四 国	50,800	△ 1,100	98	469	△ 4	47,800	224,000
九 州	191,100	△ 700	100	480	△ 32	155,100	744,300
沖 縄	677	△ 39	95	289	△ 18	665	1,920

注：1 10a当たり予想収量及び予想収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

2 主食用作付見込面積及び予想収穫量（主食用）については都道府県ごとの積み上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

3 沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから、沖縄県計の10a当たり予想収量及び予想収穫量（主食用）の算出には、第一期稲の10a当たり収量と第二期稲の10a当たり平年収量を用いた。

図2 全国農業地域・都道府県別作況指数（9月15日現在）
【農家等が使用しているふるい目幅ベース】



注：1 作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

2 徳島県、高知県、宮崎県及び鹿児島県の作況指数は早期栽培、普通期栽培を合算したものである。また、沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから、沖縄県計の作況指数の算出には、第一期稲の10a当たり収量と第二期稲の10a当たり平年収量を用いた。

【統計表】

統計表一覧

ページ

- 1 令和元年産水稻の作付面積、10 a 当たり予想収量及び作柄概況（9月15日現在）
・・・・・・・・・・ 6
- 2 令和元年産水稻の出穂期及び刈取済面積割合（9月15日現在）
・・・・・・・・・・ 8

利用上の注意

- 1 統計数値については、次表の方法によって四捨五入しており、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

原 数		7 桁以上 (100万)	6 桁 (10万)	5 桁 (1万)	4 桁 (1,000)	3 桁以下 (100)
四捨五入する桁数（下から）		3 桁	2 桁		1 桁	四捨五入しない
例	四捨五入する前（原数）	1,234,567	123,456	12,345	1,234	123
	四捨五入した数値（統計数値）	1,235,000	123,500	12,300	1,230	123

- 2 表中に用いた記号は次のとおりである。
「…」：事実不詳又は調査を欠くもの
「△」：負数又は減少したもの
- 3 この統計表に記載された数値等を他に転載する場合は、「令和元年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況」（農林水産省）による旨を記載してください。

1 令和元年産水稻の作付面積、10a当たり予想収量及び作柄概況（9月15日現在）

全 国 都道府県	作付面積（青刈り面積を含む。）				10a 当たり 予想収量 ①	（参考）農家等が使用している ふるい目幅で選別		
	実 数	前年産との比較				10a 当たり 予想収量 ②	10a 当たり 平年収量 ③	作 況 指 数 ④=②/③
		対 差	対 比	%				
全 国 (1)	1,584,000	△ 8,000	99	536	522	519	101	
北 海 道 (2)	105,600	△ 800	99	573	556	532	105	
青 森 (3)	50,400	100	100	621	603	575	105	
岩 手 (4)	55,900	0	100	553	539	522	103	
宮 城 (5)	75,300	400	101	554	537	522	103	
秋 田 (6)	90,500	△ 400	100	594	578	554	104	
山 形 (7)	68,900	△ 200	100	625	608	580	105	
福 島 (8)	71,400	200	100	565	544	529	103	
茨 城 (9)	76,600	△ 400	99	506	498	515	97	
栃 木 (10)	69,200	△ 100	100	539	528	529	100	
群 馬 (11)	17,100	△ 200	99	494	477	482	99	
埼 玉 (12)	33,400	△ 200	99	493	478	476	100	
千 葉 (13)	60,800	△ 200	100	517	509	532	96	
東 京 (14)	129	△ 4	97	405	395	404	98	
神 奈 川 (15)	3,050	△ 40	99	467	452	478	95	
新 潟 (16)	121,900	400	100	546	533	528	101	
富 山 (17)	38,900	0	100	556	544	528	103	
石 川 (18)	25,600	△ 200	99	532	516	506	102	
福 井 (19)	26,400	0	100	523	502	499	101	
山 梨 (20)	4,910	△ 20	100	541	526	533	99	
長 野 (21)	32,400	△ 300	99	625	613	607	101	
岐 阜 (22)	25,100	0	100	482	472	478	99	
静 岡 (23)	17,100	△ 100	99	527	512	513	100	
愛 知 (24)	29,000	△ 200	99	499	490	499	98	
三 重 (25)	29,200	△ 200	99	477	465	489	95	
滋 賀 (26)	32,900	0	100	511	499	506	99	
京 都 (27)	14,600	△ 100	99	506	496	501	99	
大 阪 (28)	4,860	△ 150	97	499	485	480	101	
兵 庫 (29)	37,900	△ 100	100	500	487	489	100	
奈 良 (30)	8,560	△ 100	99	515	502	500	100	
和 歌 山 (31)	6,360	△ 70	99	491	480	486	99	
鳥 取 (32)	13,800	△ 100	99	518	504	504	100	
島 根 (33)	18,600	△ 400	98	517	506	502	101	
岡 山 (34)	31,500	△ 400	99	522	510	514	99	
広 島 (35)	23,600	△ 800	97	514	503	515	98	
山 口 (36)	20,500	△ 500	98	494	482	492	98	
徳 島 (37)	12,000	△ 200	98	466	461	469	98	
早期栽培 (38)	4,730	△ 100	98	456	451	459	98	
普通栽培 (39)	7,250	△ 90	99	474	469	475	99	
香 川 (40)	12,300	△ 500	96	482	477	491	97	
愛 媛 (41)	14,000	△ 400	97	485	477	492	97	
高 知 (42)	12,500	△ 100	99	437	432	454	95	
早期栽培 (43)	7,240	△ 70	99	455	450	476	95	
普通栽培 (44)	5,290	△ 50	99	413	409	425	96	
福 岡 (45)	38,500	△ 400	99	477	457	477	96	
佐 賀 (46)	26,100	△ 200	99	482	467	503	93	
長 崎 (47)	12,700	△ 100	99	474	457	464	98	
熊 本 (48)	42,300	0	100	497	482	497	97	
大 分 (49)	24,400	△ 200	99	478	456	480	95	
宮 崎 (50)	23,200	0	100	475	462	482	96	
早期栽培 (51)	8,700	△ 110	99	459	450	470	96	
普通栽培 (52)	14,500	100	101	486	469	490	96	
鹿 児 島 (53)	23,900	200	101	462	449	468	96	
早期栽培 (54)	6,570	10	100	438	427	435	98	
普通栽培 (55)	17,300	200	101	469	455	478	95	
沖 縄 縄 (56)	677	△ 39	95	289	287	306	94	
第一期稲 (57)	506	△ 21	96	331	330	359	92	
第二期稲 (58)	171	△ 18	90	159	...	

注：1 ①10a 当たり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
 2 （参考）農家等が使用しているふるい目幅で選別の②10a 当たり予想収量、③10a 当たり平年収量及び④作況指数については、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。
 3 沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから「…」で示しており、沖縄県計の10a 当たり予想収量及び予想収量（主食用）の算出には、第一期稲の10a 当たり収量と第二期稲の10a 当たり平年収量を用いた。

参 考		作柄概況 (平年比較)				
主食用作付見込面積	予想収穫量 (主食用)	穂数の多少	1 穂当り もみ数の 多 少	全 もみ数 の 多 少	登熟の良否	
⑤	⑥=①×⑤					
ha	t					
1,379,000	7,369,000	…	…	…	…	(1)
97,000	555,800	多 い	やや少ない	やや多い	平年並み	(2)
39,200	243,400	多 い	やや少ない	やや多い	平年並み	(3)
48,300	267,100	多 い	やや少ない	やや多い	平年並み	(4)
64,800	359,000	やや多い	平年並み	やや多い	平年並み	(5)
74,900	444,900	やや多い	やや少ない	やや多い	平年並み	(6)
56,900	355,600	多 い	やや少ない	多 い	平年並み	(7)
60,400	341,300	やや多い	平年並み	やや多い	平年並み	(8)
66,400	336,000	平年並み	平年並み	やや多い	やや不良	(9)
54,900	295,900	やや多い	平年並み	やや多い	やや不良	(10)
13,600	67,200	やや少ない	平年並み	やや少ない	や や 良	(11)
30,900	152,300	やや少ない	やや多い	平年並み	平年並み	(12)
53,700	277,600	やや多い	やや少ない	平年並み	やや不良	(13)
129	522	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み	(14)
3,040	14,200	少 ない	平年並み	少 ない	良	(15)
106,800	583,100	やや多い	平年並み	やや多い	やや不良	(16)
33,300	185,100	多 い	やや少ない	やや多い	やや不良	(17)
22,700	120,800	やや多い	平年並み	やや多い	平年並み	(18)
23,600	123,400	やや多い	平年並み	やや多い	やや不良	(19)
4,810	26,000	やや少ない	やや多い	平年並み	平年並み	(20)
30,900	193,100	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良	(21)
21,400	103,100	やや少ない	平年並み	平年並み	平年並み	(22)
15,600	82,200	やや少ない	多 い	多 い	不 良	(23)
26,600	132,700	やや少ない	平年並み	平年並み	平年並み	(24)
26,900	128,300	やや少ない	やや多い	平年並み	やや不良	(25)
30,200	154,300	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み	(26)
13,800	69,800	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	(27)
4,850	24,200	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	(28)
35,300	176,500	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	(29)
8,450	43,500	やや少ない	平年並み	平年並み	平年並み	(30)
6,360	31,200	やや少ない	やや多い	平年並み	平年並み	(31)
12,600	65,300	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良	(32)
16,900	87,400	やや少ない	やや多い	平年並み	平年並み	(33)
29,300	152,900	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み	(34)
22,200	114,100	やや多い	やや少ない	平年並み	やや不良	(35)
18,400	90,900	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み	(36)
11,000	51,300	…	…	…	…	(37)
…	…	平年並み	やや多い	平年並み	やや不良	(38)
…	…	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	(39)
12,000	57,800	少 ない	平年並み	少 ない	良	(40)
13,500	65,500	やや少ない	やや多い	平年並み	やや不良	(41)
11,300	49,400	…	…	…	…	(42)
…	…	やや多い	やや多い	多 い	不 良	(43)
…	…	やや少ない	やや多い	やや少ない	やや不良	(44)
34,500	164,600	少 ない	平年並み	少 ない	や や 良	(45)
23,700	114,200	少 ない	平年並み	少 ない	平年並み	(46)
11,300	53,600	少 ない	やや多い	やや少ない	平年並み	(47)
32,300	160,500	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み	(48)
20,400	97,500	少 ない	やや多い	少 ない	平年並み	(49)
14,600	69,400	…	…	…	…	(50)
…	…	やや少ない	やや多い	平年並み	やや不良	(51)
…	…	少 ない	やや多い	少 ない	や や 良	(52)
18,300	84,500	…	…	…	…	(53)
…	…	やや少ない	やや多い	平年並み	やや不良	(54)
…	…	少 ない	やや多い	少 ない	平年並み	(55)
665	1,920	…	…	…	…	(56)
…	…	やや少ない	やや少ない	やや少ない	やや不良	(57)
…	…	…	…	…	…	(58)

- 4 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積（令和元年9月15日現在）を除いた面積（見込み）である。
- 5 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の早期・普通期別等の主食用作付見込面積は、作期別に備蓄米、加工用米、新規需要米等の面積を把握していないことから「…」で示している。
- 6 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の県平均の「穂数の多少」以降の指標は、調査を早期・普通期別等に行っており県平均を取りまとめていないため、「…」で示している。

2 令和元年産水稻の出穂期及び刈取済面積割合（9月15日現在）

都道府県	出穂期						刈取済面積割合			
	始期	最盛期	終期	最盛期の比較						
				対平年差	対前年差					
月	日	月	日	月	日		%			
全 国	…	…	…	…	…	…	26			
北海道	7.	23	7.	29	8.	4	3日早	4日早	3	
青森	8.	1	8.	4	8.	9	1日早	1日早	0	
岩手	7.	31	8.	4	8.	9	並み	1日遅	3	
宮城	7.	30	8.	2	8.	7	1日遅	2日遅	2	
秋田	7.	30	8.	2	8.	9	2日早	1日早	1	
山形	7.	31	8.	4	8.	11	1日早	1日遅	2	
福島	8.	2	8.	9	8.	17	1日遅	4日遅	0	
茨城	7.	22	8.	1	8.	13	4日遅	6日遅	57	
栃木	7.	28	8.	2	8.	18	3日遅	7日遅	30	
群馬	8.	6	8.	21	9.	2	2日遅	5日遅	3	
埼玉	7.	26	8.	12	8.	31	2日遅	5日遅	27	
千葉	7.	14	7.	26	8.	7	4日遅	6日遅	76	
東京都	8.	6	8.	15	8.	29	2日遅	6日遅	1	
神奈川県	8.	3	8.	13	8.	20	2日遅	4日遅	13	
新潟	7.	24	8.	3	8.	12	2日早	並み	32	
富山	7.	21	8.	1	8.	8	並み	2日遅	70	
石川	7.	17	7.	29	8.	3	並み	2日遅	71	
福井	7.	15	8.	2	8.	13	2日遅	6日遅	75	
山梨	8.	4	8.	10	9.	2	2日遅	4日遅	4	
長野	7.	30	8.	8	8.	16	2日遅	5日遅	11	
岐阜	7.	20	8.	21	9.	4	1日遅	3日遅	24	
静岡県	7.	21	8.	9	8.	31	2日遅	4日遅	39	
愛知県	7.	26	8.	19	9.	5	1日遅	3日遅	30	
三重	7.	18	7.	27	8.	12	4日遅	7日遅	86	
滋賀	7.	26	7.	31	8.	15	並み	3日遅	49	
京都	7.	23	8.	1	8.	16	2日早	1日遅	39	
大阪	8.	1	8.	22	8.	31	2日早	並み	8	
兵庫県	7.	29	8.	11	8.	30	並み	3日遅	32	
奈良	8.	1	8.	23	8.	29	1日早	並み	15	
和歌山	7.	19	8.	8	8.	24	1日遅	3日遅	46	
鳥取	7.	27	8.	8	8.	24	3日遅	3日遅	18	
島根	7.	20	8.	1	8.	21	2日遅	6日遅	49	
岡山	7.	30	8.	21	9.	5	1日遅	3日遅	22	
広島	7.	22	8.	8	8.	27	1日遅	4日遅	38	
山口	7.	28	8.	9	8.	29	並み	2日遅	40	
徳島	早期栽培	7.	6	7.	16	7.	28	2日遅	3日遅	100
	普通栽培	7.	19	7.	31	8.	30	並み	1日遅	62
香川	7.	20	8.	22	9.	1	1日遅	2日遅	39	
愛媛	7.	18	8.	14	9.	3	1日遅	2日遅	42	
高知	早期栽培	6.	24	7.	3	7.	16	1日遅	2日遅	100
	普通栽培	8.	11	8.	18	8.	31	1日早	並み	2
福岡	7.	31	8.	23	9.	6	並み	2日遅	20	
佐賀	7.	20	8.	30	9.	13	2日遅	3日遅	9	
長崎	7.	17	8.	27	9.	6	並み	2日遅	13	
熊本	7.	14	8.	23	9.	7	並み	3日遅	9	
大分	8.	1	8.	28	9.	5	2日遅	4日遅	3	
宮崎	早期栽培	6.	20	6.	24	7.	1	1日早	2日遅	100
	普通栽培	8.	16	8.	25	9.	4	並み	1日遅	0
鹿児島	早期栽培	6.	15	6.	26	7.	15	1日早	4日遅	100
	普通栽培	8.	20	8.	28	9.	8	2日遅	3日遅	0
沖縄	第一期稲	4.	27	5.	19	6.	12	4日早	2日早	100

注：出穂期の始期、最盛期、終期とは、出穂済みの面積割合がそれぞれ5%、50%、95%に達した期日である。

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び作柄概況調査として実施したものであり、水稻の作付面積、作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、需給見通しの策定、経営安定対策、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としている。

2 調査の対象

調査は、全国の各都道府県を対象に実施している。

3 調査対象数

(1) 作付面積調査

標本単位区：39,411単位区

(2) 作柄概況調査

作況標本筆：10,178筆 作況基準筆：479筆

4 調査事項

水稻の作付面積、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況及び耕種状況

5 調査期日

(1) 作付面積調査：令和元年7月15日現在

(2) 作柄概況調査：令和元年9月15日現在

6 調査・集計方法

(1) 作付面積調査

職員又は統計調査員による標本単位区に対する実測調査により行った。なお、職員による巡回・見積りにより実測調査結果を補完して取りまとめている。

(2) 作柄概況調査

職員又は統計調査員による作況標本筆及び作況基準筆に対する実測調査により行った。なお、職員又は統計調査員による巡回・見積りにより実測調査結果を補完して取りまとめている。

7 実績精度

作付面積調査の対地標本実測調査における水稻作付面積に係る調査結果（全国）の実績精度（標準誤差率の推定値）は、次のとおりである。

区 分	標準誤差率（％）
水稻作付面積	0.35

注：標準誤差率（％）＝標準誤差の推定値÷推定値×100

8 用語の解説

(1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WCS用稲、わら専用稲等を含む。）のほか、飼料用米等を指す。

(2) 「穂数の多少」とは、1㎡当たりの穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階

で表している。

- (3) 「1穂当たりもみ数の多少」とは、1穂についているもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (4) 「全もみ数の多少」とは、1㎡当たりのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (5) 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表している。
- (6) (2)から(5)までの平年比較とは、過年次の作況標本筆の実測調査結果から作成した各収量構成要素（1㎡当たり穂数等）の平年値との比較である。

多 少 (良 否)	少ない (不良)	やや少ない (やや不良)	平年並み	やや多い (やや良)	多 い (良)
対平年比	94%以下	95～98%	99～101%	102～105%	106%以上

- (7) 「作況指数」とは、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり予想収量の比率である。

なお、平成26年産以前の作況指数は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出していたが、平成27年産以降の作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

全国農業地域名	所 属 都 道 府 県 名	農家等使用目幅
北 海 道	北海道	1.85mm
東 北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島	1.85mm
北 陸	新潟、富山、石川、福井	1.85mm
関 東 ・ 東 山	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野	1.80mm
東 海	岐阜、静岡、愛知、三重	1.80mm
近 畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	1.80mm
中 国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	1.80mm
四 国	徳島、香川、愛媛、高知	1.75mm
九 州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島	1.80mm
沖 縄	沖縄	1.75mm

- (8) 「10 a 当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢を基に作成したその年に予想される10 a 当たり収量をいう。

9 その他

- (1) この資料のうち、作付面積の数値は、概数値である。

確定した詳細な数値は、ホームページに掲載（令和2年2月予定）するとともに、その後発行する「令和元年耕地及び作付面積統計」に掲載する。

なお、確定した詳細な数値をホームページに掲載した後の正誤情報は、ホームページでお知らせする。

- (2) 本調査における作柄概況（9月15日現在）は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行った。したがって、今後の気象条件等により作柄は変動することがある。

【ホームページ掲載案内】

- 各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の統計情報で御覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

この結果は、分野別分類「作付面積・生産量、被害、家畜の頭数など」、品目別分類「米」の「作況調査（水陸稲、麦類、豆類、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）」で御覧いただけます。

【 http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html#y3 】

【関連リンク】

農業生産振興関係ページ：農林水産省＞組織別から探す＞政策統括官

http://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/

お問合せ先

◎本統計調査結果について

- ・作付面積に関すること

農林水産省 大臣官房統計部

生産流通消費統計課 面積統計班

電話：（代表）03-3502-8111 内線3681

（直通）03-6744-2045

FAX：03-5511-8771

- ・作柄概況に関すること

生産流通消費統計課 普通作物統計班

電話：（代表）03-3502-8111 内線3682

（直通）03-3502-5687

FAX：03-5511-8771

◎農林水産統計全般について

農林水産省 大臣官房統計部

統計企画管理官 広報普及班

電話：（代表）03-3502-8111 内線3589

（直通）03-6744-2037

FAX：03-3501-9644



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)

<http://www.e-stat.go.jp/>



農林業センサス

令和2年2月1日現在で、2020年農林業センサスを実施します。

○農林業経営体調査（令和元年12月中旬～令和2年2月末）

○農山村地域調査（令和元年12月上旬～令和2年2月末）

円滑な調査の実施に向けて、ご協力をお願いします。